

## 研究結果報告書

所属 武漢大学

役職 日本学科学科長

氏名 曾丹

### 研究結果

本研究は育児と介護に同時に直面する「ダブルケアラー」を研究対象として、彼らが利用しているソーシャル・サポート・ネットワークの実態及び規定要因を把握したとともに、ダブルケアが彼らの主観的幸福感に与えた影響について分析を行った。

主な研究成果は以下のとおりである。

#### (1) ダブルケアラーのサポートネットワークの類型

ケアをめぐるサポートネットワークの構造を捉える先行研究は、育児と介護で分立しており、ケア複合化の現実を十分に捉えきれていない。そこで本研究ではダブルケアラーに着目して、潜在クラス分析を用いてサポート源の組み合わせという側面からサポートネットワークを把握するとともに、多項ロジット回帰分析で規定要因を検討した。その結果、ダブルケアラーが利用するサポートネットワークは、公助中心型・配偶者中心型・家族中心型・知人中心型の4つに分けられた。育児と介護が重複する際に、身近な家族によるサポートは安定的なサポート源となる一方、サポートの利用状況では男女差があることも明らかになった。また、就労や重いケア負担によって公共機関からのサポートを求める傾向が顕著になった。

#### (2) ダブルケアがケアの担い手の主観的幸福感に与えた影響

「Inglehart-Welzel Cultural Map」(2020)を見ると、日本と中国はともに「儒教圏」に属する。しかし、儒教の浸透の過程やその度合いは異なっており、それによって家族観において異なる特徴を示す可能性がある。本研究では、日本と中国の家族観の違いを踏まえ、2018年の「日本家計パネル調査」データと「中国家庭追跡調査」データを用いて、両国の比較分析を行った。分析の結果、ケア遂行とケアラーの幸福感との関連において、日本と中国は異なる傾向を示すことが明らかになった。日本では、親の扶養がケアラーの幸福感を低下させる一方、子育てはケアラーの幸福感に正の関連を持つことが見出された。逆に中国では、親の扶養が中国のケアラーの幸福感を高め、子どもへの援助が幸福感の低下につながる傾向が示された。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

被「圧縮」的青年：個体化与主婦化背後家庭主義観念的一致性. 胡益頤. 『中国青年研究』. 2021年9月.

中日両国における家族観とダブルケア当事者の主観的幸福感：JHPS/KHPS と CFPS データに基づく比較分析. 胡益頤、曾丹. 『日本文学社会研究』. 2021年11月.

ダブルケアラーのサポートネットワークの類型：インフォーマル・サポートとフォーマル・サポートの組み合わせに着目して. 胡益頤. 『理論と方法』 (審査中).

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

日本文化漫談. 曾丹編. 武漢大学出版社 (出版予定).